

# 小さいのち 二十周年シンポジウム

## 「体験者が考えるグリーフケア」

「小さいのち」は、全員が子どもを亡くした家族で構成している自助グループです。発足から二十年が過ぎました。この節目の年に下記の記念行事を行います。基調講演に続き、3人の会員が体験発表を行います。子どもが受けた医療と家族が受けたケア、そのとき幼い兄はどのように過ごしたか。当時を振り返るとともに死別後の道のりや、今改めて言葉にできることをお話しします。

### プログラム

1. 基調講演 「生命の危機に直面する疾患をもつ患者と家族」とともに  
余谷暢之氏 国立成育医療研究センター総合診療部 緩和ケア科 診療部長

2. 「小さいのち」の20年を振り返り 坂下裕子

3. 体験発表

- ・母親「最後まで生きると信じた白血病との闘い」
- ・兄 中学2年生（当時小学1年生）「きょうだいの気持ち」
- ・母親「我が子への迫られる決断と永遠の葛藤」

※発表の概要はウェブサイトに掲載中



4. 会場との意見交換

日時 2019年3月24日（日）13:30～16:30 開場13:15

場所 関西学院大学梅田キャンパス1405室（茶屋町アプローズタワー14階）

対象 医療従事者 グリーフケアに関心のある人

定員 80人（要予約）

参加費 小さいのち（子どもを亡くした家族の会）の運営への支援として  
一口500円の寄付を3口（1500円）以上でお願いいたします。

申し込み・問い合わせ [s-ayumi@pop21.odn.ne.jp](mailto:s-ayumi@pop21.odn.ne.jp) 会代表 さかした ひろこ 坂下 裕子

主催 こども遺族の会「小さいのち」 <http://www.chiisanainochi.org/>